

# 『CROWN PLUS Level 3 New Edition』の特長

— 改訂を終えて

東京大学 山本史郎

## 1. 新学習指導要領との関係（文法・文構造）

『クラウンプラス』はその名前のように、「学習指導要領」に発展的内容を加えた、プラスαの検定外準教科書です。

新学習指導要領では文法に関して、英語Ⅰ、Ⅱで学習すべき以下の文法事項がコミュニケーション英語Ⅰですべて扱うことになりました。

- ・不定詞の用法（原形不定詞の用法など）
- ・関係代名詞の用法（先行詞をとらない関係代名詞 what や非制限的の用法など）
- ・関係副詞の用法
- ・助動詞の用法（過去形、受け身表現、完了形を用いた過去に関する推測の表現など）
- ・代名詞のうち、it が名詞用法の句及び節を指すもの（形式主語として it が名詞用法の節を指すもの、形式目的語として it が名詞用法の句及び節を指すものなど）
- ・動詞の時制など（現在完了進行形、過去完了形など）
- ・仮定法
- ・分詞構文

『クラウンプラス』では、それらはすべて Level 3 でカバーされています。さらに検定教科書では扱わない発展的な文法事項も含まれます。

例えば分詞構文では、

〈接続詞＋分詞〉

You should be careful not to lose your passport **when traveling** abroad.

〈分詞の意味を強調する as 節〉

Loving opera as she does, she naturally tried to get a ticket.

〈being が省略された分詞構文〉

Confident that they would win, the players were all relaxed when they arrived at the stadium.

といった文法事項を取り上げています。

また今回の指導要領で「文構造」という名称が変わった、今まで「文型」と呼ばれていたものでは、There ～ . のところで、

〈There + 助動詞 + be 動詞 + 主語〉

There **must** be a better place than this.

〈There + be 動詞 + 主語 + 分詞〉

There are about hundred people **waiting** in the line.

〈There + be 動詞以外の動詞〉

Between the mountains there **lies** a large lake.

といった項目を扱っています。

高度な英文に対応できる読解力を養成するために必要な、一歩進んだ文法項目・文構造を『クラウンプラス Level 3』では取り上げています。

## 2. 新学習指導要領との関係（語彙）

続いて語彙に関してですが、今回の学習指導要領では、中学で約 1,200 語、高校のコミュニケーション英語で約 1,800 語（Ⅰで 400 語、Ⅱで 700 語、Ⅲで 700 語）、計約 3,000 語を指導することになりました。

『クラウンプラス』の語彙は、Level 3 のみで約 3,000 語あります。Level 4 はプラス約 1,500 語で、Level 3 と 4 を合わせると約 4,500 語になります。

Level 3 でセンター試験に必要な語彙レベルをほぼカバー、Level 4 で難関大学にも対応できる語彙レベルが身につくようになっています。

## 3. 『Level 3』改訂のポイント

今回の『クラウンプラス Level 3』の改訂では、授業でより扱いやすくなるように改良しました。具体的には、各レッスンのはじめにあった Grammar Points (文法の要点) を本文ページの後ろに移動、レッ

スの導入を文法ではなく、本文に変更しました。

また1つのレッスン本文を5つのセクションに分け、区切りをはっきりさせました。

今までは一文が次のページにまたがることもありましたが、今回はすべてページ内でパラグラフが収まるようにしてあります。そして本文の内容を理解しているかすぐに確認できるよう、次ページ（同じ見開き）に True or False を新設しました。

Expressions (イディオムを中心とした表現) では、生徒に辞書を使って調べさせたり、文脈から類推させたいという声が多かったため、今回から訳を外しました。一方、どこで学習したかすぐにわかるよう、巻末に Expressions と単語の掲載ページのリストを新たに作りました。

次に問題演習に関してですが、Comprehension Check では、レッスンの内容を把握しているか確認するのはもちろんですが、表現する力をつけるように、英問英答の問題を中心にしました。

Exercises は、今までは各文法事項に対応させた確認問題が中心でした。その対応がわかることで問題自体がやさしくなってしまうきらいがありましたが、今回の改訂で Grammar Points の文法項目だけでなく、Expressions も合わせた文法・表現の総合的な演習にすることで、学習内容の確認とともに解く力を養う問題に変更しました。

最後に『クラウンプラス』で最も重要な題材について触れておきます。今回の改訂で、3つのピースを新たに書き下ろしました。そのうちの2つは、世界でも高い評価を得ている日本人についてです。

1人目は、葛飾北斎。雑誌『Life』の特集で、1001年から2000年の千年紀で人類に影響を与えた最も功績のある人物100人の中に選ばれた唯一の日本人です。名作の多い北斎ですが、その中でも最も有名な「神奈川沖波裏」に焦点を当て、その魅力と、この傑作がどのようにして生まれたかについて述べています。ゴッホやモネなどヨーロッパの印象派に多大な影響を与えた一方、北斎自身ヨーロッパの絵画から多くのことを学んでいました。また波の力強さ、造形の美しさは日本人の彫刻師、伊八の作品からヒントを得たとされています。

2人目は、<sup>みなかたかくす</sup>南方熊楠。江戸時代末期に生まれながら、19歳で渡航、15年間海外で学びます。有名なイギリスの科学雑誌『Nature』に数々の論文を発表

するなど、生物学者、博物学者として知られる熊楠ですが、生涯で一度、国に敢然と闘いを挑んだことがあります。それは明治政府が発令した、一町村で神社は一社のみにし、それ以外の神社は廃止せよ、という「神社会祀令」に対してでした。神社の廃止は、それに付随する鎮守の森を破壊することになり、棲息する動植物を絶滅させることにつながります。そして鉄砲水などの災害を起きやすくし、憩いや癒しの場、村祭りや神事など文化を育む場を喪失させ、その結果、人々のつながりや絆が薄れ、地方が衰退してしまうこととなります。

熊楠は日本ではじめて「エコロジー」ということばを使って、鎮守の森がいかに動植物や人間、あらゆる生物にとって重要であるか、訴えました。10年におよぶ闘いの末、ついに神社会祀令は廃止されます。熊野古道が守られ、現在世界遺産に登録されているのも熊楠のおかげです。

3つ目は、人間をはじめ生物にとって不可欠な「水」です。2025年には水不足が深刻化し、水が石油以上の戦略物資になると言われています。Blue Planet と呼ばれ、豊かな水をたたえる地球ですが、実際に使用できる水は全体のわずか0.0001パーセント程しかありません。ほとんどは海水、もしくは氷河です。

日本の水利用の問題や、旧ソ連の失策で琵琶湖80個分の面積が消失したアラル海の惨状などを通して、日本に<sup>いにしえ</sup>古からある考え方「吾唯足るを知る」がこれからの地球に求められる「持続可能な開発」のヒントになるのではないかと提起しています。

この3つの新しいピースを含む全12レッスンは、高校生の知的好奇心を刺激し、精神的成長を促す題材を幅広く扱っています。900語から1,300語の読み応えある英文で書かれており、論理的展開を意識しながら、しっかり内容を味わってもらいたいと思います。

